

令和7年度指定管理者評価シート

1. 管理運営の状況等

(1)施設名	グリーンヒルうらわ
(2)施設概要	①所在地 さいたま市緑区馬場1丁目7番地1 ②施設の設置目的 進行する高齢化社会に対応し、市民の福祉の向上増進を図るための複合施設。 ③施設の概要 開設年月 平成5年5月 延床面積 10,282.29㎡ 構造 介護老人保健施設棟:鉄筋コンクリート造 地下1階 地上3階建 ケアハウス棟:鉄筋コンクリート造一部鉄骨造地下1階 地上6階建
(3)指定管理者	社会福祉法人さいたま市社会福祉事業団
(4)指定期間、指定管理料	①指定期間 令和7年4月1日～令和12年3月31日 ②指定管理料(直近3か年) 令和5年度 226,986千円 令和6年度 366,998千円 令和7年度 275,600千円
(5)施設の管理運営の内容	①運営業務の状況(利用状況含む) ◇利用状況 ○軽費老人ホーム(ケアハウス) ・平均入居者数 22.1人(前年度 60.4人) ◇業務実施状況 自分らしく暮らしたいという利用者に寄り添い、個々の生活に対する支援・サービスを提供するよう心掛けた。 (1)「入浴」「食事」「生活相談」等のサービスを低額な料金で利用し、安全で安心な住まいとして生活を継続することができるよう利用者の声に耳を傾け、適切な支援を行った。 (2) 利用者の心身状況等を日々の支援の中や健康診断で的確に把握しながら、利用者一人ひとりが個性豊かにいきいきと過ごせるように、その自立を尊重した。 (3) 利用者のニーズや環境変化に対応した魅力ある施設づくりのために利用者アンケート等を行い、その結果を職員が共有するとともに意見や要望への対応について検討を行った。 (4) 伝統行事を大切に、季節の変化を感じていただき、単調になりやすい日常に刺激を与えるとともに、健康で明るい生活を送れるよう、「菖蒲湯」「七夕飾り」「敬老祭」「新春の祝い」など、毎月行事を開催した。 (5) 利用者が身体機能を維持し生きがいをもって生活するため、家族をはじめ、介護支援専門員との円滑な連携を図り、介護サービスへつなげるとともに施設入所への支援を行った。 (6) 利用者の人権擁護への意識の向上を職員間で共有し、日常業務の中や施設内研修等で学習の機会を設けた。 (7) 新型コロナウイルス等感染症対策については、日常観察に注視し異変に対する気づきをする等、感染を拡大させない取組を行った。万が一、陽性者が発生した場合も速やかに拡大防止に取り組める体制を整えた。 (8) 地域福祉活動の支援については、次のとおり実施した。 ア 三室地区社会福祉協議会との共催事業である「ボランティア体験サロン」をケアハウスぎんもくせい食堂で月1回開催した。とりわけ、8月にはさいたま市社会福祉協議会の「さいたま夏のボランティア体験学習事業」として開催され、小学生から大学生計37名が参加した。毎回参加されているボランティアから雑巾の縫い方を教わるなどの世代間交流も行われていた。 イ 三室地区社会福祉協議会と共催事業の介護予防体操教室は、「元気に！エクササイズ＆ウォーク」として月1回ケアハウスぎんもくせい食堂で開催し、地域で体操講師として活動する市民を講師として招き、チューブやティラピスボールを使用したストレッチを中心の体操を実施した。 ウ 地域包括支援センターとの共催事業である「オレンジカフェみむろ」を認知症の人とその家族、地域住民、専門職等の誰もが参加でき集える場所として、月1回オレンジ(旧喫茶室)で開催した。 エ 令和7年12月に三室地区社会福祉協議会と共催で「グリーンヒルうらわ人権標語大会」を開催し、利用者ならびに地域住民等から応募された全23句の標語をホールに1ヶ月間掲示し、表彰式も行った。 オ 令和7年12月15日に三室地区社会福祉協議会と共催で、福祉講座「知ろう！学ぼう！成年後見制度」を開催し、地域住民26名、利用者6名の合計32名が参加された。 カ 令和7年12月から、さいたま市長寿応援ポイント対象事業として土日祝日を除く毎日、「グリーンヒルうらわラジオ体操」をホールで開催し、利用者のみならず地域の方も気軽にご参加いただき、健康促進だけでなく参加する毎にポイントを溜めていくことを楽しんでいただいた。 キ 令和8年2月19日に株式会社明治のご協力をいただき、暮らしに役立つ講座「チョコレートの世界へようこそ！」を開催し、地域住民32名、利用者4名が参加された。 ②維持管理業務の状況 開設から32年が経過しあらゆる設備が耐用年数を経過している中、老朽化及び劣化による不具合修繕(非常用発電機部品交換修繕等)をその都度実施した。 ③その他の業務 特に無し

(6)収支状況	収入(費目)	収入(金額)	前年度	支出(費目)	支出(金額)	前年度
	介護保険事業収入	0円	(208,673千円)	人件費	96,393千円	(443,147千円)
	老人福祉事業収入	30,072千円	(76,366千円)	事務費	20,315千円	(21,546千円)
	障害サービス等事業収入	0円	(1,901千円)	施設管理費	130,043千円	(207,566千円)
	指定管理料	275,600千円	(366,998千円)	事業費	9,733千円	(54,265千円)
	その他	896千円	(846千円)	繰入金支出	37,757千円	(44,658千円)
	人件費積立資産取崩収入	0円	(8,736千円)	その他	10,111千円	(8,582千円)
	事業区分間繰入金収入	0円	(180,000千円)			
	拠点区分間繰入金収入	0円	(27,089千円)			
	前期末支払資金残高取崩	0円	(4,207千円)			
	【自主事業】					
	収入	-	-	支出	-	-
(7)利用者アンケート等による 市民からの意見・要望等への対応	「みなさまの声」(投書箱)を設置するとともに利用者アンケート等を実施し、様々な状況でご利用者様からの意見・要望を受け付ける機会を設け、ご意見等があった際には、迅速に対応を検討し改善を図ることとした。 利用者アンケートにおいて、事業廃止に伴う転所に向けて個々に向き合ってくれたことや、色々と配慮してくれたことに対する感謝のお言葉をいただいた。					
(8)その他	特に無し					

2. 提案内容の達成状況

(指定管理者から提案のあった項目の達成状況)

提案内容	達成状況
総合的包括的支援	自分らしく暮らしたいという利用者に寄り添い、個々の生活に対する支援・サービスを提供するよう心掛けた。 日常生活に潤いと変化を与え、心身の活発化の為に毎月行事を開催した。また、アウトリーチコンサートなど地域住民参加型の行事も行い、地域に根ざし共に楽しむことを実践した。 また、地域福祉活動への貢献と地域社会との繋がりを目的に以下の活動を行った。 (1) 三室地区社会福祉協議会との共催事業として「ボランティア体験サロン」を月1回開催した (2) 三室地区社会福祉協議会との共催事業として「元気に！エクササイズ＆ウォーク」を月1回開催した。 (3) 地域包括支援センターとの共催事業として「オレンジカフェみむろ」を月1回開催した。 (4) 令和7年12月に「グリーンヒルうらわ人権標語大会」を開催した。 (5) 令和7年12月15日に福祉講座「知ろう！学ぼう！成年後見制度」を開催した。 (6) 令和7年12月から土日祝日を除く毎日「グリーンヒルうらわラジオ体操」をホールで開催した。 (7) 令和8年2月19日に暮らしに役立つ講座「チョコレートの世界へようこそ！」を開催した。
苦情解決への取り組み	施設に苦情受付担当者と苦情解決責任者を配置し、苦情解決の責任主体として苦情申出人に対し誠実に対応し、解決に努める体制をとった。なお、令和7年度における苦情受付件数は0件であった。
不適切な支援の防止	施設内に身体拘束適正化・虐待防止委員会を設置し、不適切な支援や虐待を未然に防ぎ、利用者の人権を考慮した適切なサービス提供に努めた。また、虐待防止チェックリストを全職員対象に年1回実施し検証を行うとともに、「人格・尊厳の尊重」「信頼を得るための態度・行動」「配慮」を職員一人ひとりが自らの態度を振り返ることができるよう、全職員を対象に人権意識振り返りシートを年1回実施した。
入所者の転所支援について	日常の支援にあたる職員の他に、社会福祉士や介護支援専門員等の資格を有する転所支援担当職員を配置し、個別担当制として日常の支援と転所支援を総合的にを行い、所管課と情報共有および緊密に連携した。利用者の転所先、転所時期が決定した時点で速やかに所管課への報告を行い、移転補償について不利益が生じないよう対応した。 転所支援相談は、利用者一人ひとりに対し定期的な面接はもとより、利用者と保証人双方のご希望を伺いながら転所先の選定にあたった。 また転所先の施設との連絡や調整、手続きに必要な書類の準備等について、利用者と保証人の希望を踏まえ合意を得ながら取り組んだ。健康な状態で転所していただけるよう、日常の健康管理・異常の早期発見早期介入に努めた。令和7年度においては、利用者37名の転所支援が完了した。

3. 評価

(1) 指定管理者による評価

指定管理期間(5年間)の1年目として、事業廃止に伴う他施設等への転所支援について、入所されている全ての方が安心して次の生活の場へ転所していただけるよう個別に丁寧な支援を行ってきた結果、年間で37名の転所支援を完了することができた。

一方、利用者数が減少するなかで、残る利用者の転所に対する焦燥感や不安を軽減し、より充実した生活を実現すると同時に、地域福祉の支援を維持・拡大するため、新規事業「グリーンヒルうらわラジオ体操」をはじめ積極的に地域貢献活動を展開した。

(2) さいたま市の評価(評価担当課:福祉局長寿応援部高齢福祉課)

総合評価 (B) ※A～D

1 項目別の評価

①「市民の平等利用、市民サービスの向上、利用促進」に対する評価

・利用者及び親族に寄り添って丁寧に転所支援を進めるとともに、「ボランティア体験サロン」や「グリーンヒルうらわラジオ体操」といった地域貢献活動を積極的に展開した点を評価した。

②「経費の削減」に対する評価

・転所の進捗に伴い変化していく施設状況に応じて、設備等の管理方法を適宜見直すなどして、経費の節減に努めていた点を評価した。

③「適正な管理運営の確保」に対する評価

老朽化及び劣化による設備等の不具合に迅速に対応するとともに、不適切な支援を防止するための研鑽や内部統制等に取り組み、施設の適正な管理運営に努めていた点を評価した。

2 総合評価

事業計画に沿って、適正に施設運営が行われている。

(3) 来年度の管理運営に対する指導事項等

現利用者の転所支援を含め、引き続き適切な管理運営に努めて下さい。